

レポートの作成および提出について

1 手順

- 実験のレポートは各自が作成し、「基本課題」と「実践課題」の 2 部構成にしてください。
- 「基本課題」の部分までのレポートを実験 3 日目に提出し、担当教員または TA のチェックを受けてください。なお、チェック後でも積極的に「基本課題」の部分を加筆修正して構いません。
- 実験 4 日目に「基本課題」と「実践課題」をあわせた最終版のレポートを提出し、担当教員から試問を受けてください。

2 作成上の注意点

- 以下のような表紙を付けてください。表紙以外は、他の情報工学実験のレポートの様式と同様です。できるだけ L^AT_EX, Microsoft Word, OpenOffice Writer, Google ドキュメント文書などを用いて作成してください。

情報工学実験 III 画像による 3 次元計測
実験日 : yyyy/mm/dd, mm/dd, mm/dd 提出日 : yyyy/mm/dd
学生番号 : XXXXXX 氏名 : ○○ ○○
第 X グループ : メンバー氏名 1, メンバー氏名 2, ...

- レポートは提出前に「実験レポート チェックシート」で必ず自己チェックしてください。実験 3 日目の仮レポート提出時には、自己チェックしたチェックシートを添えてください。また、実験 4 日目の最終版にもそのチェックシートを添えてください。このチェック作業を怠ると減点します。

3 内容

「実験レポートのサンプル」を参考に、全体的に以下のような内容を含むようにレポートを書いてください。必要に応じて細かく項目を分けるなど、構成を変更しても構いません。教員ではなく、この実験について全く知らない他コースの同級生をレポートの読者に想定して書いてください。

I 基本課題

1. 目的 基本課題の概要，理解・習得すべき事柄を書く。
2. 原理 計測の仕組み，実験装置の動作原理，使用するソフトウェアやサンプルプログラムの仕様について調査し，理解した範囲でよいので，できるだけ詳しく書く。
3. 方法 実験の設定・環境，プログラムの作成・実行の作業手順などを，理由と共に書く。誰もが同じ実験を確実に再現できるように漏れなく具体的に書くこと。
4. 結果 方法どおりに実行して得た結果を整理し，図表番号を付して示す。単に結果を羅列するのではなく，図や表の見方を解説する。実験中に結果を必ず記録しておくこと。
5. 考察 結果の図表を番号で引用しながら，そのような結果となった理由と，結果を根拠として明らかにできたこと，実験中に気がついたこと，工夫した点などを書く。

参考文献 参考にした文献や資料をリストにする。参考文献にはすべて番号を付け，レポート内から番号で引用すること。(最終版のレポートではリストをまとめて末尾に移動)

ここまでを「仮レポート」として実験3日目にチェックします。最終版には以下を追加してください。

II 実践課題

1. 目的 実践課題の概要，ねらいを書く。
2. 方法 使用するソフトウェアと機能，仕組みを示すアルゴリズムやフローチャート，実験の設定・環境，実行の手順などを書く。
3. 役割分担 グループのメンバーの役割と，それぞれの作業内容を具体的に書く。
4. 結果 方法どおりに実行して得た結果を整理し，図表番号を付して示す。実験中に結果を必ず記録しておくこと。
5. 考察 結果の図表を番号で引用しながら，そのような結果となった理由と，結果を根拠として明らかにできたこと，実験中に気がついたこと，工夫した点などを書く。

参考文献 (最終提出版では，ここに全ての参考文献をまとめる)

感想 実験を通して自分は何を得たか。その他，感想や意見を自由に書いてください。

なお，プログラムのソースコードを示したい場合は，説明に必要な数行の抜粋のみにすること。

4 評価

1. 「実験手順書」の基本課題と実践課題の各項目に取り組んだ証拠が示されているか (40 点)。書いあることのみに取り組んだと見なします。
2. Qの質問項目に対して良質の回答が書かれているか (40 点)。4日目には，これらの項目からいくつか試問します。
3. グループのメンバーと協力して計画的に実施できたか (10 点)。
4. 本実験に関連する技術を自主的に調査しているか (10 点)。